

1 基本項目	事務事業名	魚津のさかなブランド化推進事業			担当 部署	課名	農林水産課	
	予算事業名	6.魚津のさかなブランド化推進事業				係名	水産振興係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1033	
	事業期間	開始年度	平成18年	終了年度		当面継続	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち				科目	6.農林水産業	
	政策名	3 地域の特性を活かした農林水産業の振興				項目	4.水産業費	
	施策名	6 水産業の振興				目	1.水産振興費	
基本事業名	6-3 魚のブランド化と地産地消の推進			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	魚津産の水産物をブランド化して定着させることにより、魚価を向上させ漁業経営を安定化させる。
	対象	魚津産の水産物
	手段 (活動指標)	新たな水産物の発掘
	意図 (成果指標)	魚津産水産物の消費者の評価を高め、魚津のさかなの消費の拡大。

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標 成果指標	① 市内水揚げ量	t	5,000	5,010	5,000	4,775	95.5%	5,000
	②							
	③							
	① 市内水揚げ額	百万円	1,500	1,626	1,500	1,571	104.7%	1,500
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円						
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円	500,000	500,000	500,000	500,000	0.0%	500,000
	⑤その他	円						
	支出合計(A)	円	500,000	500,000	500,000	500,000	0.0%	500,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円	500,000	500,000	500,000	500,000	0.0%	500,000
	収入合計	円	500,000	500,000	500,000	500,000	0.0%	500,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	2	2	-33.3%	2
	②年間所要時間	時間	300	120	100	80	-33.3%	80
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	1,260,000	504,000	420,000	336,000	-33.3%	336,000
	総費用(A+B)	円	1,760,000	1,004,000	920,000	836,000	-16.7%	836,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	寒ハギ「如月王」、「パイ飯」について宣伝を行い、普及を推進した結果、この2種について取扱店舗、需要量が増大し、市場での取り扱い価格の向上に貢献した。	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	魚津産水産物のブランド化により、魚価を向上、安定は、漁業経営の安定と水産業の振興に必要である。
対象の妥当性					1 妥当である	魚津産水産物のブランド化を図る事業であり、妥当である。
有効性	有効性	A	A	目標達成度	1 高い	寒ハギ「如月王」、「パイ飯」は、魚津ブランドとして定着してきている。
				類似事業の有無	1 なし	地方創生「水産資源開発事業」と類似するところがあるが、それぞれを別事業により実施することで効果が期待できる。
				上位施策への貢献度	1 高い	魚津産水産物のブランド化により、魚価を向上、安定は、漁業経営の安定と水産業の振興に必要である。
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	寒ハギ「如月王」、「パイ飯」の更なる魚津ブランドの定着を推進するためのPR、販路拡大に必要な経費である。
				実施主体の適正化	1 適正である	魚津市の漁業の主体である漁協に対する支援であり適正である。
				負担割合の適正化	1 適正である	負担割合は適正である。
	1次評価 (課長総括)	A	A	現行どおり補助することが適当	2次評価	不要
	後(課題及び今後の方針)評価結果	寒ハギ「如月王」、「パイ飯」は魚津ブランドとしての定着が図られてきており、ブランド構築の取り組みを引き続き実施していくことにより確固たるものとなるよう努めていかなければならない。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	水産資源開発事業			担当 部署	課名	農林水産課	
	予算事業名	水産資源開発事業				係名	水産振興係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1033	
	事業期間	開始年度	平成27年度	終了年度		平成28年度	会計	一般会計
	総合計画 目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち				科目	款	総務費
	政策名	3 地域の特性を活かした農林水産業の振興				項目	項	総務管理費
	施策名	6 水産業の振興				目	目	地方創生推進費
基本事業名	6-3 魚のブランド化と地産地消の推進			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載			

2 事業概要	事業概要	おさかなランドで発生する未利用・低価格魚を活用した商品開発を行い、需要増、高付加価値化を目指し、漁業者の収益向上、関連産業の活性化に繋げていく。
	対象	魚津市で水揚げされる未利用魚・低価格魚
	手段 (活動指標)	未利用・低価格魚を活用した商品開発・改善、消費拡大を行う。
意 (成果指標)	未利用・低価格魚の高付加価値化、魚津のさかなの消費の拡大。	

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動 指標	① 未利用・低価格魚の使用量	トン			2.0	1.5	75.0%	10.0	
	②								
	③								
	成果 指標	①							
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円						
	②委託料	円						
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円			9,400,000	9,400,000		5,060,000
	⑤その他	円						
	支出合計 (A)	円	0	0	9,400,000	9,400,000		5,060,000
財源 内訳	①国庫支出金	円			9,400,000	9,400,000		5,060,000
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	0	0	9,400,000	9,400,000		5,060,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人			2	1		1
	②年間所要時間	時間			100	220		220
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	0	0	420,000	924,000		924,000
	総費用(A+B)	円	0	0	9,820,000	10,324,000		5,984,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	平成27年度は、未利用・低価格魚を活用した商品開発、生産体制の整備及び消費拡大PRを実施した。平成28年度も継続して商品改善、販売促進活動を実施していく。	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	【選択してください】	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	未利用魚等を活用した商品開発やブランド化により、魚価を向上、安定させることは漁業経営を安定を図り水産業の振興に必要であり、市が関与することは妥当である。
目的の妥当性				1 妥当である	魚価を向上、安定させて漁業経営の安定を図ることは、水産業の振興に必要である。	
対象の妥当性				1 妥当である	魚津産水産物の利用(商品開発)、ブランド化を図る事業であり、妥当である。	
有効性	【選択してください】	A	目標達成度	2 目標どおり	商品開発、メニュー開発は、計画通りに進捗している。継続して販路開拓や魚津ブランドとして定着を図るための取り組みを促進する必要がある。	
			類似事業の有無	1 なし	市単事業「魚津のさかなブランド化推進事業」と類似するところがあるが、それぞれを別事業により実施することで効果が期待できる。	
			上位施策への貢献度	1 高い	魚価を向上、安定させて漁業経営の安定を図ることは、水産業の振興に必要である。	
効率性	【選択してください】	A	コスト効率	1 高い	地方創生事業による定額補助(10/10)である。	
			実施主体の適正化	1 適正である	魚津市の漁業の主体である漁協に対する支援であり適正である。	
			負担割合の適正化	1 適正である	地方創生事業による定額補助(10/10)である。	
1次評価 (課長総括)	【選択してください】	A	現行どおり補助することが適当		2次評価	不要
後(課題及び今後の方針)	寒ハギ「如月王」、「パイ飯」に続く魚津ブランドとして確立させなければならない。支援を含め漁協との連携の一層の強化が必要である。				評価結果	